５年生通信
Move Mountains
４月１９日９号

○国語科：物語文を学習する意義

国語で読むものは、大きく・物語文・説明文の二つに分けられます。

「なぜ物語文を学ぶのですか」と問いました。あまり考えたことがない問いだと思います。

・想像力がつく

・登場人物の気持ちが分かる

・道徳でも文章を読み、考えることができる

・表現技法を学ぶことができる

など、気持ちを理解したり、想像力を養ったりするといった意見が多く出ました。確かに大切なことですが、一側面に過ぎません。

これまでの国語教育は、**気持ちばかり問う授業**が展開されてきたことが反省点として挙げられます。

一番大切な力は、**書いてあることを正確に読む**こと、そして**物語を深く読むこと**です。私は、以下のように定義しています。

物語を深く読む

最初に読んだ後

みんなと何回も読んだ後

・感想が変わる

・新しいことに気づく

・みんなの考えを知る

例えば、２年生の教材に「スーホの白い馬」というものがあります。光村図書の教科書では４０年以上にわたって掲載され続けています。

スーホの大切な白い馬が殿様に殺されるという衝撃的な展開を迎えます。

２年生は、最初「かわいそう」「悲しいお話」という感想をもちます。しかし、繰り返し

読んでいくうちに最後には「馬頭琴（楽器）になることでスーホといつまでも一緒にいられるようになった。」と、ポジティブに捉えることができようになります。
　こうして捉え方が変わったり、感想が変わったりする経験を通して、精読することの意義を理解していきます。

　日常の読書活動とは違います。
　読書は、趣味で好きなものを一度だけ読むのが主流です。もちろん、気に入った本を繰り返し読むということはあるでしょう。

　授業では、何度も繰り返し、一言一句、助詞の一文字にまでこだわって読むことがあります。こうして、精密に読むことを精読（せいどく）と言います。
　その中で、解釈を出し合い、時には討論をして考えを形成していきます。
　これは、集団で同じ文章を読むから実現可能なことであり、授業でしかできないことです。

　気持ちを想像することも大切なことですが、空中戦になりがちです。**文章（テキスト）を根拠にして**考えを形成することが大切です。

　難しく書きましたが、難しいことはしません。
　自分たちで問いを立て、解決するサイクルで、自分たちで深い読みを実現していきます。
　まずは「銀色の裏地」を通して学習法を学んでいきましょう。